

体育哲学専門領域 2025 年度 第 3 回定例研究会のご案内

坂本拓弥（筑波大学）・野上玲子（江戸川大学）

日 時 : 2026 年 2 月 28 日（土）13:45 開始

開催形態 : 【対面】と【オンライン(zoom)】によるハイブリッド形式

【対面】

会場：日本体育大学 東京・世田谷キャンパス 1302 教室（3 階）

東京都世田谷区深沢 7-1-1

注意事項：対面会場では、当日、Wi-Fi のゲストアカウントを発行します。eduroam も利用可能です。

【オンライン】

接続方式：会員 ML にてご案内しております。2 月 10 日（火）送信の「【ご案内】2025 年度第 3 回定例研究会」をご確認ください。

注意事項：

ご自身のお名前は「氏名（所属）」で表示してください。こちらで参加者を確認しますので、氏名はフルネームでの表示をお願いいたします。また、発表の録音や録画、配布資料の無断転載等をご遠慮ください。その他、発表の妨げとなる事態が生じた場合、ホストが画面や音声を制御することがあります。なお、会員以外が閲覧を希望する場合は、会員から研究担当にご連絡ください。

【プログラム】

13:45 代表挨拶 深澤浩洋（筑波大学）

13:50 研究発表①（修士論文） 森康太郎（筑波大学大学院）

現代スポーツにおける観戦者の美的体験の再検討

〔概要〕本研究の目的は、プロスポーツにおいて導入が進む自動判定補助テクノロジーが観戦者の美的体験に与える影響を明らかにすることである。自動判定補助テクノロジーは、観戦者にデータ自体を消費する面白さなどの新たな美的価値を創出するが、この美は身体的共感に基づく伝統的なスポーツの美とは対立する。本研究では、テクノロジーの介入を美学の観点から批判的に論じ、観戦者を美の享受者から情報の監査人へと変質させ、観戦文化の質的な貧困化を招いていることを示したい。

14:30 研究発表②（博士論文） 中野大希（筑波大学大学院）

## 運動実践における痛みの経験の現象学的究明

〔概要〕本発表の目的は、運動実践における痛みの経験が実践者にとって如何なる事象であるのかを現象学的に究明することである。そのために本研究では、メルロ＝ポンティの身体論を方法的視点に据え、痛みの経験が実践者の身体と知覚世界との関係を変容させる仕方を検討する。それによって、痛みの経験は、状況に応じた身体運動を可能にする事象であることが明らかにされるだろう。なお、本発表は博士学位論文の内容に基づいている。

(休憩)

### 15：20 研究発表③（博士論文） 李恩熙（日本体育大学大学院）

#### 中国武術訓練空間の変容と現代における伝統的な武術訓練場の存在意義

〔概要〕本研究は、歴史学・哲学・人類学的視点から武術訓練場を対象とし、その歴史的展開および現代社会における伝統的な武術訓練場と現代武術訓練場の差異を検討することで、武術訓練場が形成されてきた社会的・文化的条件とその価値を明らかにすることを目的とする。明清時代の軍事教場から現代の武術訓練場に至る変遷を整理し、現代社会における伝統的な武術訓練場と現代の武術訓練場との空間論理の差異を分析した。現代社会において伝統的な武術訓練場が、特に門戸の形成過程において、実践者にとっていかなる意義を有しているのかを明らかにした。

### 16：00 研究発表④（修士論文） 大友一樹（筑波大学大学院）

#### 中央競技団体における「育成」と「強化」理念の検討：チームスポーツに着目して

〔概要〕本研究の目的は、各競技団体において用いられている「育成」および「強化」の概念を捉えなおすことである。本研究の結論としては、まず「育成」を「将来的に競技者が活躍できるよう様々な可能性を考慮にいれて彼らの技能や身体能力を、向上させるコーチング」と捉えなおすとともに、「強化」を「戦術選択や選手起用によって、選手の卓越性をより強くし、発揮させるコーチング」とであると捉え、これらの「育成」と「強化」は交互に循環するものであることが示される。

### 16：40 副代表挨拶 関根正美（日本体育大学）

### 17：30 情報交換会

#### 【問い合わせ先：研究担当】

坂本拓弥 sakamoto.takuya.ga@u.tsukuba.ac.jp

野上玲子 rnogami@edogawa-u.ac.jp